

源宗寺本尊遷座発遣啓白文（口語訳）

つつしんで三世十方（無限の時間と空間）の諸仏、諸菩薩、尽十方法界（全世界）の一切三寶（すべての仏、仏法、僧）に申し上げます。

山門は今月今日の吉日を占い定め、埼玉県熊谷市梅龍山東竹院の住職、比丘（僧）天溪世一らが、当山（源宗寺）本堂の解体改築にちなみ、うやうやしく源宗寺本尊の東方薬師瑠璃光如来、大慈大悲観世音菩薩の遷座仮安置の儀を厳かにとり行わせていただきます。

つつしんで今、ここに集う皆さんとともに大悲心陀羅尼経を誦経し、集まった善利（仏に帰依することによって得られる優れた利益）は、大権修利菩薩（曹洞宗で祀られる寺院の守護神）、当山の鎮守、護法の諸天善神、伽藍の守護、合堂の真宰（当寺に祀られている全ての仏）に献じ祝います。

かえりみれば、源宗寺は開山以来、連綿とその法灯を継承し、宗派の流儀を伝え本日に至っています。しかしながら長い年月を経る中で、堂宇（寺の建物）は傾き、朽ちかけてしまいました。今、檀家、縁のある方々が源宗寺の永続を心ひとつに願い、寺の修理復興を発願し、浄財を集め、寺の装いを一新して創建以来の法灯の厚い恩情に報い、先祖たちの尊い霊にお答えしようとしております。

源宗寺を守り鎮め、仏の教えを守る諸天善神がこの地を災難から守り、寺の建物を守り、工事が無事に進み、檀家の皆様同士が仲良く、工事関係者の安全、良い天候が続くこと、そして全ての良き行いが成就することをお祈りします。

願わくば山門が安らかであり続け、檀家信者が強い信仰心を持ち続け、仏様による加護の素晴らしい智恵の力が私たちのために、あまねく明らかになりますように。謹んで申し上げます。

維時（本日）令和二年十二月一日

梅龍山東竹院住持（住職）比丘 天溪世一 敬白

（口語訳…小久保 則和）